会山行報告書

通算山行 NO	NO. 396B	報告者	後藤隆徳
年 月 日	2010年01月23日(土・晴)	2万5千	須走・印野
山 名	富士山・宝永山(2693m)		

体力度=4・やや厳しい 技術度=4・やや難しい 道標=ある 駐車場=ある トイレ=ない 展望度=よい 三角点名=ない 等級=

久しぶりの宝永山

とタイム 10:30—下塚下スキ―終了12:05—洞門12:45		
	上り 洞門約1280m~宝永山直下約2700m=約1420m	
標高差	下り "	
参 加 者	L後藤隆徳(62)、山本佳樹(42)	



再び富士山に出掛ける。山岳スキーは山域が限定され静岡県の場合、唯一富士山が可能。1時間で行ける我々は果報者かもしれない。

ただ、今年は冬型が強くやや雪が少ないのが悩み。洞門からスキーを担いで行く。今期担ぐのはこれで3回目。二合目でも駄目で更に上り、やっとシール歩行になる。

ただ、先日暖かく雨が降ったらしく

雪面と言うより氷面だった。従ってラッセルはなく上りに関しては効率的だった。今日は久しぶりに宝永山に上れるかも知れないと思った。

一口に宝永山と言っても洞門から標高差は約1400m。これにラッセルがあると 簡単には上れないのが実情。加えて年々の加齢 で苦しさは増すばかりだ・・・。

20歳違う山本はさすがに馬力がある。後ろで力を持て余しているので先行させる。ルートは宝永山直下で右に曲がる。山本は直登し宝永山の縁を乗り越える。私はまだ30分は掛るので、2693mの標高点まで行って貰う。

宝永山直下でスキーを脱ぎアイゼンで上る。 乗越すと西に大展望が開け駿河湾が一望出来た。 宝永火口にはほとんど雪は無かった。時間は1 0時半。標高差1400mを4時間半はマアマア 悪くない。

山本と合流し滑降に移る。雪面が硬く傾斜が強 くスキーが履けない。滑降ルートは宝永山斜面の





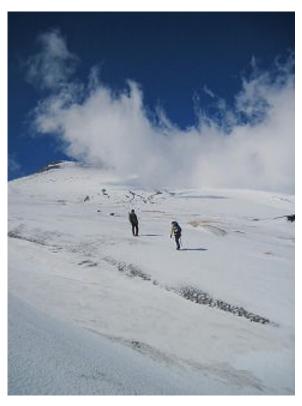
左の沢を滑る。山全体は雪が少ないが、風下の沢はいい雪がある。2400mまで滑り更に左の不浄沢(?)はもっと良い雪が続いていた。

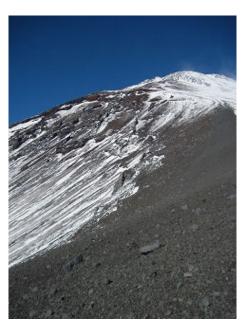
ここから二ッ塚に 大トラバース。上塚 から下塚下で終了。 今日も満足な山岳ス キーだった。

サイコーの斜面



若い二人がいた





宝永火口